

平成28年度 【 学園研究費助成金< A > 】研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ イソベキンジ
氏名 磯部錦司

研究期間 平成28年度

研究課題名 幼小大連携による環境をコアとした芸術教育学研究

—北欧州エコ・カリキュラムを基にした日本の実践学の創造—

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	磯部錦司	教育学部	教授
研究分担者	野崎健太郎	教育学部	准教授
研究分担者	三田郁穂	椋山女学園大学附属幼稚園	教諭
	伊藤准子	〃	教諭
	山田祥世	〃	教諭
	森 文乃	〃	教諭
研究分担者	古田小百合	椋山女学園大学附属小学校	教諭
	イミック新子	〃	非常勤講師

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

これまでの小学校教育における図画工作科、理科、及び幼稚園教育における環境領域、表現領域において、自然観・生命観を主題とした芸術による教育の意味と実践の展開を総合教育の視点から検討し、生命科学と芸術教育学の領域から環境教育の在り方を提言してきた。また、2011年より<生命>を主題にアート・プロジェクト”Dialogue of Life”としてデンマーク、チェコ、オーストラリア、フランスにおいて共同実践を試みてきた。本研究では、附属幼稚園・小学校での実践事例及びドイツとの共同実践研究を中心にその実践学の構築に向け、芸術活動を学びのプロセスと捉え、芸術活動の統合的機能、想像的機能に着目し、幼児・児童における実践の意味と表現内容について検討し、横断的実践の展開と方向を事例から示す。

2. 研究の推進方策 (300字程度で記述)

欧州において収集、及び共同実践した「生命をコアとした芸術による総合教育」の実践事例を整理し、園・小学校での実践とドイツを中心とした交流授業の実践事例からプロセスと表現内容を検討し事例分析からその教育の意味と方向を示す。

- ・附属幼稚園、小学校における実践事例と考察
- ・欧州における芸術と環境教育に関わる調査と実践資料の集収
- ・日本での実践事例の展開と記録の収集、事例分析
- ・幼児、児童の活動記録と作品内容からの事例分析
- ・来年度に向けたドイツでの実践交流の計画と日本における実践の構築

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

1. <自然/生命>をコアとした教育の構想

①「生命主義的自然観を基軸とした芸術による教育」の構想

1980年代以降の現代日本の生命哲学と、ポストモダン以後の芸術に見られる芸術文化のエロジーの思潮、及びJ.デューイの経験主義的自然観を基に、質と関係を融合させる状況的、関係的、円環的な自然観を基軸とした芸術教育について検討し、その教育を具体化させる芸術の統合的、想像的、コミュニケーション的機能に着目し、芸術の働きを6層から位置づけた。

②ドイツ公立小学校との共同実践研究

保育・教育における「アート概念」を再検討し、環境を視点とした芸術(アート)によるドイツとの共同実践開発と子どもの実践交流をとおした実践研究において実践事例を示した。

2. 実践事例の考察

①事例:「星空」(幼稚園)

経験を基盤とし連続した芸術をとおした個の物語の生成。イメージの個から共同への拡張による包括的な世界観の構築。総体的な宇宙観と知の広がり。

②事例:理科「身の周りにある川の始まり」と図工「水のイメージ」(小学校)

「知のネットワーク」における循環的、円環的な自然観の広がり人間中心な本質への気づき。

③事例:ドイツ・イーダーオーバーシュタイン小学校との共同実践「Dialogue of Life」(小学校)

地域素材(日本;和紙、ドイツ:石)によるワークショップをとおした全体的な世界観に対する見方や感じ方の広がり。地域概念の空間から関係性への変容。

3. 「芸術の6層」を基にした展開の方向と可能性

芸術の6層(A層「環境との一体化」、B層「個の想像的世界の形象化」、C層「環境の芸術化」、D層「生活の芸術化」、E層「社会的リアリティー化」、F層「社会的創造活動の芸術化」)を基に考察する。幼稚園では日常的な造形活動による場の保障と、生活と表現がつながることによってA層からB層へと展開し、「星空」の事例ではさらに空間と一体化したC層の状況を生みだし、このような連続した表現活動の継続によって今後D層の状況への発展が期待される。小学校の事例では、生命科学との「知のネットワーク」によってB層が深まり、E層に至る状況が見られる。国境や園・学校の枠をこえた実践の広がりによってF層の状況へと発展することが今後考えられる。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①芸術	②自然	③生命	④環境教育
⑤生命科学	⑥造形表現	⑦造形教育	⑧図画工作

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

<自然/生命>をコアとし、芸術を総合と捉えその教育による実践事例を提案し、そのありようを示した。得られた成果は下記である。

- ・幼小大連携による教育実践への還元
- ・理科教育と図画工作科教育の連携による環境教育としての「総合的な学び」の提案
- ・ドイツとの共同実践研究を基にした日本における総合教育の構想と継続
- ・「芸術の6層」による自然観、生命観を軸にした知の構想と実践事例によるその具体化

実践研究は継続中であり、芸術の位置づけ及び他領域とのネットワークのありようや要件について課題としてさらに実践学として構築させていきたい。その課題は下記である。

- ・幼児教育、小学校教育での事例の構築とプロセスの質的分析
- ・ドイツでの共同実践とプロセス及び表現内容の質的分析